

国際連合地域開発センター（UNCRD）の日本のSDGs達成度評価と水関連プロジェクト

国際連合地域開発センター（UNCRD）一般公開シンポジウム

2023年国連水会議 開催記念シンポジウム

2023年6月12日 14:00~17:00 [開場13:30]

会場：国連大学エリザベス・ローズ国際会議場(5階)
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70

主催：国際連合地域開発センター（UNCRD）
共催：外務省、国土交通省、オランダ政府、国際連合広報センター（UNIC）
言語：日英(同時通訳) 形式：ハイブリッド形式(対面、Zoomによる配信)

2023年3月にニューヨーク国連本部で行われた「2023年国連水会議」での主な議論や成果を国内で共有することを目的に記念シンポジウムを開催します。



2023年国連水会議での議論と成果について

■ 司会による国連水会議の全体概要紹介
横田紗子 国際連合地域開発センター（UNCRD）災害リスク軽減と水に関するプログラム専門家

■ スピーカー
- インタラクティブ対話3「気候、レジリエンス、強靱性、環境のための水」
上川陽子 2023年国連水会議日本国総経理特使・兼副委員長（予定）
- 「水行動アジェンダ」と今後のフォーラップ
コリス・フランデレン オランダインフラ水管理官 国際水問題コーディネーター
- 自治体のショーケース
大西一史 熊本市長
- 熊本水イニシアティブ
袴袴利和 国土交通省水管理・国土保全局 国際河川技術調整官

パネルディスカッション「水とローカルSDGs - 持続可能な都市の実現に向けて」

モデレーター： 廣木倫三 政策研究大学院大学教授/水と災害に関するハイレベルパネルコーディネーター
パネリスト：
- 沖野子 宇宙航空研究開発機構地球観測センター長
- 加藤篤 NPO法人日本トイレ研究所代表理事
- 寒川博之 メタウォーター株式会社海外営業部長/水インフラ国際展開タスクフォースリーダー
- 古澤礼太 中部大学准教授、中部ESD拠点事務局長
- 山田朋人 北海道大学大学院工学研究科教授

参加申込み [要申込み・参加費無料・定員に達し次第、受付は終了] 高野 吉甲

2023年国連水会議から第10回世界水フォーラムへ
ヘリ・アフマディ駐日インドネシア特命全權大使



2023年国連水会議開催記念シンポジウム プログラム

13:30-14:00	開場・受付
14:00-14:15	閉会挨拶 李翠華 (Li Junhua) 国際連合経済社会開発担当事務次長 ベーター・ファン・デル・フリート 駐日オランダ王国大使 原圭一 外務省大臣官房参事官 榎本かおる 国際連合広報センター所長
14:15-15:00	2023年国連水会議での議論と成果について 司会による国連水会議の全体概要紹介 横田紗子 国際連合地域開発センター 災害リスク軽減と水に関するプログラム専門家 スピーカー - インタラクティブ対話3「気候、レジリエンス（強靱性）、環境のための水」 上川陽子 2023年国連水会議日本国総経理特使・兼副委員長（予定） - 「水行動アジェンダ」と今後のフォーラップ コリス・フランデレン オランダインフラ水管理官 国際水問題コーディネーター - 自治体のショーケース 大西一史 熊本市長 - 熊本水イニシアティブ 袴袴利和 国土交通省水管理・国土保全局 国際河川技術調整官
15:00-15:15	コーヒーブレイク
15:15-16:45	パネルディスカッション「水とローカルSDGs - 持続可能な都市の実現に向けて」 安全な水やトイレへのアクセス、水質改善、気候変動をはじめとする地球規模課題等、現在直面する様々な国際課題を取り上げ、それらの解決策として地方自治体や地域レベルでの活動（事例発表、スマートシティプロジェクト等）を中心に、政府、地方自治体、国際機関、市民団体、企業が対話をし、今後の連携について議論する。 モデレーター 廣木倫三 政策研究大学院大学教授/水と災害に関するハイレベルパネルコーディネーター パネリスト 沖野子 宇宙航空研究開発機構地球観測センター長 加藤篤 NPO法人日本トイレ研究所代表理事 寒川博之 メタウォーター株式会社海外営業部長/水インフラ国際展開タスクフォースリーダー 古澤礼太 中部大学准教授、中部ESD拠点事務局長 山田朋人 北海道大学大学院工学研究科教授
16:45-16:55	2023年国連水会議から第10回世界水フォーラムへ ヘリ・アフマディ駐日インドネシア特命全權大使
16:55-17:00	閉会挨拶 遠藤和重 国際連合地域開発センター所長

参加申込み [要申込み・参加費無料・定員に達し次第、受付は終了] [要申込み・参加費無料・定員に達し次第、受付は終了]

【お問合せ先】国際連合地域開発センター 〒450-0001 名古屋市中村区区部1-47-1 名古屋国際センタービル6階 Tel: 052-561-9544/9377 Email: page@uncred.or.jp

会場での参加 [要申込み・参加費無料] 名義貸付申し込みは、前日までにzoomリンクをお送りします。 https://ws.formzu.net/dft/S17103026/

Zoomでの参加 [要申込み・参加費無料] 名義貸付申し込みは、前日までにzoomリンクをお送りします。 https://ws.formzu.net/dft/S90263022/

参加登録締切：2023年6月8日(木)正午

HALFWAY TO 2030: JAPAN SDG LOCAL AND REGIONAL REPORT 2023

2030年までの道筋：地方自治体SDGs達成度評価2023

2023年9月

国際連合地域開発センター / 「地方自治体SDGs達成度評価」編集委員会

3. 地方自治体におけるSDGs達成度 (2015-2022)

3.1 都道府県におけるSDGs達成度(2022)

日本の全都道府県におけるSDGs達成度の2022年平均値と2015年から2022年までの変化率をFigure 3.1に示します。最も達成度が高いのはゴール9であり、それにゴール8、ゴール15が続きます。一方、50%未満のゴールはゴール2、ゴール5の2つです。ゴール2は農業をはじめとした食料生産の低さが要因で達成度が低くなっている一方で、ゴール5はわずかに改善していますが、依然として最も達成率が低い状況が続いています。

2015年からの変化を見ると、13のゴールで改善傾向にありますが、そのほとんどで達成度の増加は10%未満にとどまり、この速度では2030年に目標達成が期待できるゴールはありません。達成度の増加が大きいゴールとしては、ゴール7とゴール17とがあり、ゴール7は再生可能エネルギーの普及、ゴール17はSDGsへの取り組みが進んだことが影響しています。ゴール16が低下しており、順位を落としています。

Figure 3.2に示す都道府県での分布をみると全国平均では高い達成率であっても、都道府県でのばらつきが大きいゴールもあり（例えばゴール9、ゴール6、ゴール17など）地域間の強みや弱みが大きく表れています。

Figure 3.1 | SDGs 達成度の2022年値と2015年から2022年までの変化

Figure 3.2 | 都道府県別のSDGs達成度 (2022年)

展望にあたって

筆者 遠藤和重 国際連合地域開発センター所長

2023年9月に発表された「2023年国連水会議」の開催を契機として、本報告書は日本の地方自治体におけるSDGs達成度の現状と課題を明らかにし、2030年までの達成に向けた道筋を示す。本報告書は、地方自治体のSDGs達成度評価2023の報告書に基づき、2023年9月時点の最新のデータを用いて作成された。本報告書は、地方自治体のSDGs達成度の現状と課題を明らかにし、2030年までの達成に向けた道筋を示す。本報告書は、地方自治体のSDGs達成度評価2023の報告書に基づき、2023年9月時点の最新のデータを用いて作成された。

次の方針を切り拓く

筆者 高野吉甲 国際連合地域開発センター所長

2023年9月に発表された「2023年国連水会議」の開催を契機として、本報告書は日本の地方自治体におけるSDGs達成度の現状と課題を明らかにし、2030年までの達成に向けた道筋を示す。本報告書は、地方自治体のSDGs達成度評価2023の報告書に基づき、2023年9月時点の最新のデータを用いて作成された。本報告書は、地方自治体のSDGs達成度の現状と課題を明らかにし、2030年までの達成に向けた道筋を示す。本報告書は、地方自治体のSDGs達成度評価2023の報告書に基づき、2023年9月時点の最新のデータを用いて作成された。